



私立短期大学図書館協議会

会報

Bulletin of Junior College Library Association

発行者：安部 豊巳
 発行所：私立短期大学図書館協議会
 〒228 相模原市文京 2-1-1
 相模女子大学短期大学部図書館内
 電話：0427-42-1411

1992. 3 No.30

短期大学設置基準の改訂と図書館の方向

毛利和弘

(亜細亜大学・日本経済短期大学図書館)

短期大学の設置基準が改訂されましたが、これが、今後の図書館政策にどう影響を与えるのでしょうか。また、図書館として進むべき道はどうあるべきなのかを、ここで考えてみたいと思います。

図書館に関する設置基準改訂の趣旨を一言でいえば、情報提供の質の向上と発展ということができるといえます。

改訂部分の特色を羅列してみますと、①資料収集規定の中に、図書、学術雑誌以外に視聴覚資料が明記されたこと。②図書館が持つ資料を、自館のみでなく、他の短期大学図書館等、即ち類縁機関にも利用していただくという、相互協力が明記されたこと。③収集した資料やコンピュータを利用した内外のデータベースやCD-ROM等の情報を提供するシステムを整備して、それに必要な専門的職員、または専任職員を置き提供しなければならないこと。④図書の冊数基準が廃止された代りに、従来の大学院規定に近い、教育研究上に必要な資料を、図書館を中心に系統的に収集し備えること、になったこと。座席数の規定が廃止された代りに、より質を高める観点から、学生の学習及び教員の教育研究のために十分な数の座席を備えること。等があげられます。そして、新学科申請をするような場合は、羅列したこと等を自己評価しなければなりません。

例えば、相互協力に関して、どう対応しているのか、相互貸借は積極的に展開しているのか。視聴覚資料の予算はどうか。設備はどうか。オンラインサービスを行う専門的職員はいるのか。レファレンスルームの設置はしたが、専門的職員はいるのか。こうしたことを自己評価

しなければならないわけです。評価基準の指針は、今後詰められ、その内、発表されると思いますが、改正点を見るとき、今までの短大図書館のイメージとは、相当違ったものに写ります。

以上のことから、今後の改正は、図書館の発展にとって歓迎すべきもので、21世紀に生きる図書館づくりを考えたとき、当然のことであろうと思います。

図書館の資料は、ペーパーの時代から電子の時代へと移り変わろうとしています。紙の大量消費による大規模な森林伐採は、地球危機という問題と直面し、環境保護という観点からも電子出版重点になることも遠いことではないと思います。また、相互協力ということが、特に要求され、効果的サービスを展開するものとしての、多様なコンピュータ利用が要求されることになるといえます。短大図書館は、これらの動向を的確に認識・把握し、遅れをとらないように対処する必要があり、これがまた、短大が生き残れることとも密接に関係してくると思います。大学という法人側が理解することも必要ですが、図書館員自体がよく認識しておく必要があります。そして、方向性を訴えていくことも大切な仕事でありましょう。あと大切なことは、サービスの多様化によって、利用者教育が非常に重要になってくることです。例えば、CD-ROMの使い方、オンラインサービスの利用法、マルチメディア機器の使い方、今まで行っていた文献指導や図書館利用案内では、到底まに合わない多様な利用者教育が増加してまいります。そういう体制も図書館計画のなかに早めに取り込んで行く必要があるのではないのでしょうか。

◇◇ 平成3年度全国研修会開催 ◇◇

参考業務と書誌－英米文学・日本文学

人物情報探索

をテーマに講義と演習

日時 平成3年11月14日(木)～15日(金)
 会場 古流かたばみ会館(東京・池袋)
 テーマ 参考業務と書誌
 講師 本田 康雄氏(国文学研究資料館教授)
 安藤 勝氏(大妻女子大学図書館)
 毛利 和弘氏(亜細亜大学図書館)
 参加 101名
 主催 私立短期大学図書館協議会

第1日目安部会長は開会の挨拶で、今、大学図書館は数から質への転換をせまられている、殊に短期大学設置基準の改定で、図書館を中心に資料を集めること、情報の提供および他館とのネットワークが必要であること、専任の職員を置くことがうたわれて情報の提供者として司書が力をつけることがますます求められている、そこでこの研修会の意義と成果を各館へ生かして欲しいと述べた。講義内容は本田氏の「国文学データベース－原典と研究書－」、安藤氏の「英米文学・日本文学－基本書誌の使い方－」、毛利氏の「人物情報探索－人名の探し方－」で、要旨は下記のとおり。なお、各講義の詳しい内容は「短期大学図書館研究第12号」に掲載される。2日目、参加者は10のグループに分かれ、与えられた演習問題について、あらかじめ会場に用意された各種の書誌を使って実践的な研修を行った。最後に各グループから問題の解答の発表があり、評価と指導を受けた。

また、1日目の6時より懇親会が同じ古流かたばみ会館の別会場で開かれ、女子栄養短期大学「松柏軒」のおいしい料理をいただきながら、講師の先生方を中心に歓談した。

◇国文学データベース〈原典と研究書〉

本田 康雄氏

1. 国文学研究資料館：国文学に関する唯一の国立の

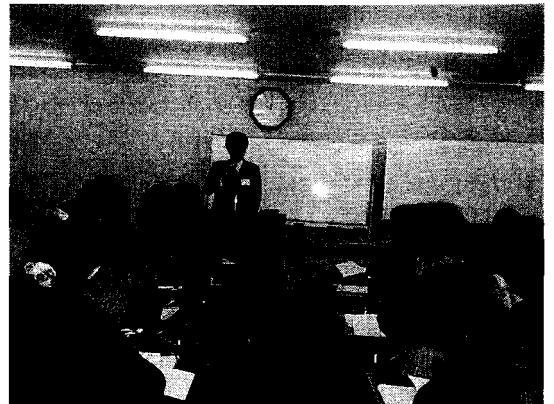
機関で国文学研究に関する情報(研究書、論文)を広く収集、整理して利用に供すること、国文学に関する文献その他の資料の目録、索引等の編集、刊行が目的。(1972年設立、東京都品川区)

2. マイクロフィルムを活用：資料の調査、収集、保存、整理のため毎年80名の「文献資料調査員」(大学教授、助教授)が協力、毎年約5,000点について文献所蔵者に撮影許可を得てマイクロネガフィルム化、収集したフィルムは整理して『国文学研究資料館所蔵マイクロ資料目録』を刊行、現在14冊、オンライン検索が可能。

3. 『古典籍総合目録』の作成：『国書総合目録』(岩波書店、全8巻)の続編として同じ岩波より全3巻で刊行。今後とも所蔵者の好意、目録作成担当者の協力で新しい目録情報の追加、修正、抹消、移籍の確認を継続。

4. 「著作典拠ファイル」「著者典拠ファイル」の作成：目録類の電算機入力(蓄積と検索)に際し異本、異版、同名異書、異名同書、同名異人、異名同人等を統一名の下に配置して、どの別称からも統一名を遡ることができ、すべての著作、著者を検索できるようにしたものを作成。

5. 国文学研究文献の整理：国文学に関する学術雑誌



(総合誌、大学・学会・研究会の機関誌、大学・研究所の紀要、研究室同人誌等)の収集、利用提供。雑誌の論文題目は『国文学年鑑』(国文学研究資料館編)に収録刊行。ここに所収の論文に基づいてデータベースを構築平成4年4月より国文学論文目録データベースのオンライン・サービスを開始。大学生、短大生の利用を期待。

6. データベースとデータ作成者の立場: 国文学研究者のデータ(資料と情報)利用の実例-自分史。

◇英米文学-基本的書誌の使い方

安藤 勝氏

1. はじめに: 図書館員は何をもって勝負するのか、つまり専門性とは何か。資料について知ること、とくに基本的な文献について意識的に知識を獲得していくこと。

2. プロローグ: 参考図書についておさらい。次の6題に回答して自己採点を。①英米文学関係の書誌や辞典にはどんなものがあるか。②宇野元首相が若い頃書いた『ダモイトウキョウ』を読みたいがそれは現在購入することができるか。③『悪魔の詩』の訳者である五十嵐一氏の専門分野と、住所を知りたい。④カリフォルニア大学出版局から Donald Richie という人が The Films of Akira Kurosawa という本を出版しているが、これは入手可能か。⑤ core という英米文学関係の雑誌を所蔵している図書館はないか調べたい。⑥ヘブライ語-英語辞典にはどんなものがあるか。

3. これが文学だ: 文学とは何か。文学の領域には二つの側面がある。一つは文芸つまり作品そのもの、もう一つは文芸の研究活動。

4. アメリカ文学の味わい: マーク・トウェイン、アンダソン、ヘミングウェイを通して。

5. 主要書誌の解題: 各種の基本的な資料を類別し、質問例をあげて解題。①書誌・索引-『雑誌記事索引』『英米文学に関する17年間の雑誌文献目録 昭23・39』『外国文学研究文献要覧<英米文学編>昭40-49』『英米文学研究文献要覧』『全国短期大学紀要論文索引』等②文献案内-『イギリス文学案内』『アメリカ文学案内』『アメリカ文学作家作品辞典』『Reference Guide to English Literature』等③翻訳書誌④専門辞典⑤個人書誌⑥日本文学に関する書誌

6. エピローグ: 書誌の語りかけ

◇人物情報探索-一人名の探し方

毛利 和弘氏

1. 人名資料のタイプ: 人名調査に必要な参考文献は次の3つに分けられる。1)伝記文献(伝記等を記載している文献が紹介されたもの、『日本人物文献目録』『年刊人物文献目録』『現代日本執筆者大事典』『伝記・評伝全情報』等)2)伝記記録(伝記や人名情報そのものが記載されている資料、『日本人人名大事典』『日本古代人名事典』『日本紳士録』『近世人名辞典』等。さらに①全般的として『世界伝記大事典』②時代別として『戦国人名辞典』『明治人物逸話辞典』③主題別として『キリスト教人名事典』等)3)ガイド(三次文献等、人名調査のガイドになる文献『人物レファレンス事典』『人名よみかた辞典』『近代号筆名辞典』『難読姓氏辞典』等)いずれにしても人名資料の効果的な構築が必要。

2. 参考図書の組織化(十字式コレクション化): 資料を構築する場合、時系列、すなわち時代的に見る縦の関係と収録範囲という横の広がりとの関係を常に考慮する。1)時系列-資料が幹になる部分と枝葉になる部分とが適切に構築されているかを見る。例えば、日本の人名事典であれば、古代から現代までの日本人の代表者を集めている幹の文献『日本人人名大事典』を中心に据え、枝葉として古代、中世、近世、近代、現代といった各時代の伝記事典等を集める。図書館の規模、予算、ニーズの傾向、カリキュラムの特色等を鑑みて上手に収集する必要。2)広がり-時系列だけでは不十分であるので、横の広がりを考える。十分に収録されているのか、それとも少しなのか、特色は何か考察しながら購入の決定をする。

資料収集と構築は盆栽作りと同じであると思う。盆栽は全体を見ながらバランスをとっていく。全体を見るには学ぶ必要がある。学びかつ実行することが大事。

平成3年度全国研修会「参考業務と書誌」

参加者アンケート結果

実施日時 1991年11月15日
回収枚数51枚 (参加者数100名)

- | | |
|--|---|
| <p>1 図書館経験年数</p> <p>イ) 1年、1年未満 11名 ハ) 10～19年 14年 ロ) 1～9年 20名 ニ) 20年以上 4名</p> <p>2 参加回数</p> <p>イ) 1回(初めて) 30名 ハ) 3回 5名 ロ) 2回 15名 ニ) 4回 1名</p> <p>3 テーマについて</p> <p>1) 大変よかった 33名 3) まあまあ 3名 2) よかった 15名 4) よくなかった 0名</p> <p>4 講義・講師について(感想)</p> <p>イ) わかりやすく、楽しかった。参考になった。 40名 ロ) 聞きとりにくかった(マイク調整等) 2名 ニ) ためになった。一般教養にもなった。 1名</p> <p>5 演習について(感想)</p> <p>イ) よかった 36名 ロ) 難しかった 7名</p> <p>・実際に資料を手にすることができてよかった</p> <p>・人数が多かったので、資料がなかなか見られなかった</p> <p>・グループの人数が多すぎる</p> | <p>6 今後の研修会への希望</p> <p>1) テーマ: 歴史 4名 分類法 2名 宗教 2名 国際文化 2名 年鑑白書 音楽 利用指導 自然科学 社会学 法律 雑誌記事索引 家政学 食物 選書基準 参考業務 地域研究</p> <p>2) 開催場所: 東京10名 北海道3名 京都3名 大阪2名 関西1名</p> <p>3) 開催時期: この時期がよい12名 春休み3名 夏休み4名 9月 10月 特に定めない</p> <p>7 研修会全体について(感想)</p> <p>・他の図書館の方と知り合いになれてよかった、情報交換ができた 7名</p> <p>・会場がわかりにくかった 2名</p> <p>・開始時間をもう少し遅く</p> <p>・参加者が多すぎる</p> <p>・会場を東京、大阪にわけて開催したらどうか</p> <p>8 その他</p> <p>・昼食のお弁当がよかった 3名</p> <p style="text-align: right;">(研修担当 平井 紀子)</p> |
|--|---|

出版物案内 - 私立短期大学図書館協議会発行 -

| | | |
|-----------|--------------|--------|
| 短期大学図書館研究 | No.1 (1980) | 在庫なし |
| | No.2 (1981) | 2,300円 |
| | No.3 (1982) | 3,800円 |
| | No.4 (1983) | 3,000円 |
| | No.5 (1984) | 在庫なし |
| | No.6 (1985) | 在庫なし |
| | No.7 (1987) | 3,800円 |
| | No.8 (1988) | 3,800円 |
| | No.9 (1989) | 4,000円 |
| | No.10 (1990) | 4,000円 |
| | No.11 (1991) | 4,000円 |

言語学・英語学関係基本文献目録
東洋英和女学院短期大学図書館編 240p 1987
2,000円 (3,438項目、書名索引、著者名索引)

| | | | | |
|-----------------------|------|------|------|----------------|
| 私立短期大学図書館総覧 | B 5版 | 700P | 1979 | 3,500円 (改訂準備中) |
| 私立短期大学図書館総覧 - 集計・分析 - | B 5版 | 66P | 1980 | 2,500円 |

入手先 私立短期大学図書館協議会
(送別) 〒228 神奈川県相模原市文京2-1-1
相模女子大学短期大学部図書館
☎ 0427-42-1411(代) FAX 0427-43-4916

図書館員になるには - 資格と就職のガイド - 改訂版
菅原春雄著 A 5版 194P 1984 1,500円
販売: 新日本印刷(株) 〒港区虎ノ門 1-8-4
☎ 03-3503-0428

地区活動報告 - 29号以後 -

〈北海道地区〉

・1991年度研修会

16館29名の参加を得て、午前中は札幌大谷短期大学を会場に、午後は見学館に赴いて行われた。

日時：1991年8月30日(10:00~17:00)

会場：札幌大谷短期大学

内容：1)情報交換および相互協力対策(10:00~12:00)

2)新築図書館見学(13:00~17:00)

・札幌大谷短期大学図書館・北星学園大学図書館・札幌市中央図書館

3)懇親会(17:30~19:00)於・ポールスター札幌

※1)に関しては、事前に「活動状況」「問題点」を調査した。

- ・新規加盟館：函館短期大学図書館(1991年7月加盟)
- ・「私短図協北海道地区協議会通信No.14」発行(1992.2.10)
- ・「レファレンス事例集」発行(1991.8.31 北海道地区図書館業務機械化研究会)

〈東北地区〉

・1991年度、総会及び研修会

12館19名が出席して下記の通り行われた。

日時：1991年9月7日(土) 13:30~17:00

場所：尚綱女学院短期大学

I 総会

議事 1. 1990年度決算報告・監査報告(承認)

2. 1991年度理事会報告

3. 1991年度予算案・事業計画(承認)

4. 1992年度理事館が決定した。

理事館 桜の聖母短期大学図書館

幹事館 尚綱女学院短期大学図書館

監事館 いわき短期大学図書館

福島女子短期大学図書館情報センター

講演 「図書館の将来計画について」

—ひとつの経験をふまえて—

小川圭治 尚綱女学院短期大学学長

II 研修会

デモンストレーション

J-BISC

ビブリオフィール

〈関東甲信越地区〉

平成3年9月26日(木)

第31回幹事会 議題 1.研修会について 2.その他

平成3年10月14日(月)~15日(火)

第7回合宿研修会開催

テーマ：「21世紀の図書館を語る—特にネットワークに関連して—」

場所：群馬県伊香保「ホテルニュー大森」

参加者：38名(内史跡探訪参加者33名)

平成3年12月2日(月)地区会報 第14号発行

会勢99館

〈東海・北陸地区〉

1、平成3年度第3回幹事会

日時：平成3年9月13日(金) AM11:00~PM3:00

場所：名古屋短期大学付属図書館

出席者：8校15名

議題：(1)平成3年度総大会の総括

(2)平成3年度研修会実施要項について

(3)研修・会報委員会

(4)その他

2、平成3年度研修会

日時：平成3年10月18日(金) AM10:00~PM4:00

場所：大垣女子短期大学図書館

出席者：24校41名

〈研修会〉

会長(名古屋短期大学図書館長)神保登代先生、大垣女子短期大学理事長 吉田三郎先生、大垣女子短期大学図書館長 松井永二先生の開会挨拶に続き、講師 高梨 章氏(関東学院大学図書館)・林 利久氏(國學院大学図書館)を紹介した後研修会に入る。

研修テーマ「参考業務」について—講演と演習—

〈講演〉
「国際文化についての考え方」を演題として高梨氏・「日本文学についての考え方」を演題として林氏が講演された。

〈演習〉

午後、参加者は四つのグループに分かれ、「国際文化」と「日本文学」についての演習問題を会場

に用意された各種の書誌を使って各グループごとに検討、発表、講師の指導を受けるという全国研修会方式で行った。
会長の閉会挨拶で、午後4時すべての日程を終了した。

14:00-18:00

特別 1992年1月16日

14:30-19:00

3、平成3年度第4回幹事会

日時：平成3年12月6日（金）AM11:00～PM3:00

場所：名古屋短期大学付属図書館

出席者：9校14名

議題：(1)平成3年度研修会の総括

(2)会報No.23について

(3)平成4年度総大会について

(4)その他

4、会報No.23編集発行について

平成4年3月中旬発行予定

〈近畿地区〉

〈第28回研究会〉

日時：1991年10月3日（木）

13:00-16:30

場所：日本エヌ・シー・アール株式会社大阪営業所

テーマ：雑誌について

参加者：加盟館 33館 42名

「雑誌目録」改訂版の作業をしているので、上記のテーマで1. 機械化、2. 発注、3. 整理、4. 利用の4グループにわかれて話し合いを持った。

〈幹事会〉

1991年度

第1回 1991年6月6日

9:30-13:00

第2回 1991年7月10日

14:00-17:00

第3回 1991年9月5日

9:30-12:00

第4回 1991年11月28日

13:30-17:00

第5回 1992年1月16日

14:00-14:30

〈雑誌目録編集委員会〉

第2回 1991年10月17日

14:30-17:00

第3回 1991年10月31日

14:00-17:00

第4回 1991年12月5日

〈中国・四国地区〉

1、次期（平成4～5年度）役員館決定

本年度の総会（平成3年4月25日）に於て提案・協議された方法に従い、次の通り役員館が決定した。

会長館・聖カタリナ女子短期大学図書館

幹事館・松山短期大学図書館

監査館・今治明德短期大学図書館

2、新旧役員引継・連絡会

平成3年11月27日（水）午後、新旧役員引継・連絡を行なった。授業等の関係で一堂に会することが出来なかったため、次期会長館の片山義弘図書館長、渡部重久図書館課長両氏が、現会長館（広島女学院大学短期大学部図書館）と現幹事館（広島文化女子短期大学図書館）を訪問される形で、必要事項の引継・連絡を行なった。

会計面ではまだ収支の動きがあることから、もう少ししばらく旧会長館が業務を続けることになった。

3、平成4年度研修会（第7回）開催準備

次期会長館が中心となって準備中である。研修会に、長沢雅男教授（東京大学・図書館学）の講演会を予定しているので、事前にアンケート調査を行ったり、未加盟館に呼びかけるなど、積極的に取り組んでいる。

〈九州地区〉

1. 名称変更：新名称：東九州女子短期大学

旧名称：中津女子短期大学

平成4年度全国研修会のご案内

本協議会主催の平成4年度短期大学全国研修会を開催する予定です。詳細は未定ですが各館の日程に入れて多数参加下さるようご案内します。

日時：平成4年10月15、16日または22、23日

会場：未定：東京を予定

テーマ：参考業務と書誌（分野：未定）

講師：未定

2. 平成4年度総会および研修会につき、下記の通り決定
- A. 日 時：平成4年4月23日（木）
 B. 場 所：福岡ガーデンパレス
 C. 当番館：九州大谷短期大学
 D. 研修会○テーマ：図書館活動に関する研究又は事例報告○発表形式：ビデオ・スライドなどのAV資料を使用する。
3. 九州大谷短期大学主催のシンポジウム開催 本協議会が後援する事に決定
 ○テーマ：『情報提供機関としての図書館の未来を考えるシンポジウム』
 日 時：平成3年6月9日（日）
 場 所：石橋文化センター（福岡県久留米市）
4. 音楽図書館協議会南西地区研究会の開催通知書を本協議会加盟館に配布
 ○テーマ：『AVメディアの近未来と図書館』
 日 時：平成3年9月2日～3日
 場 所：福岡ガーデンパレス
5. 『図書館&館員名簿』編集・発行(H.3.8月)
 担 当：近畿大学九州短期大学
6. 未加盟館へ総会・研修会のオブザーバー参加および本協議会加盟案内の文書発送(H.4.1月)
7. 機関誌『ニューズレター』No.13発行
 担 当：近畿大学九州短期大学

「短期大学図書館研究 第12号」(1992)内容紹介

I 特集 もりきよし先生記念論集

- 1 芦谷 清氏（専修大学）
「学校図書館とNDC」
- 2 鮎沢 修氏（聖徳大学）
「NDCともり・きよし先生」
- 3 石塚 栄二氏（帝塚山大学）
「NDCの変遷過程」
- 4 石山 洋氏（東海大学）
「日本十進分類法の将来」
- 5 稲村 徹元氏（埼玉純真女子短期大学）
「『明治期刊行図書目録』の周辺—書誌と著者しらべ 何を使うべきか」
- 6 岡谷 大氏（東京農工大学付属図書館）
「分類における主題と概念と意味」
- 7 渋谷 嘉彦氏（相模女子大学）
「『資料組織法』の新シラバス構築に向けて」
- 8 鈴木 英二氏（千葉経済大学）
「目録法の指導—教務手帳のメモから—」
- 9 千賀 正之氏（国立国会図書館）
「NDCと主題検索（入門篇）」
- 10 中森 強氏（国立国会図書館）
「アメリカにおける図書館協力システムの思潮」
- 11 前島 重方氏（国学院大学）
「NDCの適用について：913.68と210.2」

- 12 丸山 昭二郎氏（鶴見大学）
「ワールド・ブレインとNDC」
- 13 宮内 美智子氏（青葉学園短期大学）
「中国図書館図書分類法において“○”をいれる問題」

II 一般論稿

- 1 木村 修一氏（釧路短期大学図書館）
「図書館利用指導の効果について—釧路短期大学にみる利用者の意識と行動」
- 2 神崎 政美氏（田中千代学園短期大学図書館）
「アメリカの大学図書館での図書館利用教育—その発生経緯と開始期に展開された問題—」

III 研修会報告

- 1 本田 康雄氏（国文学研究資料館教授）
「国文学データベース：原典と研究書」
- 2 安藤 勝氏（大妻女子大学図書館）
「参考業務と書誌 英米文学—基本的書誌の使い方—」
- 3 毛利 和弘氏（亜細亜大学・日本経済短期大学図書館）
「人名資料の構築の仕方」

図書館の「館」に対する私のこだわり

茨城女子短期大学図書館 成井 恵子

雪降るなかを自転車で来た利用者は、図書館の建物の中へ入ってから自転車を降り防寒のための衣服を脱ぐ。そのため、北欧の図書館の入口は建屋内に広くとってある。学校図書館では、生徒の冬の遊び場がこれも室内に広く用意されて、遊具類はこわされるたびに修理して置く。図書館の外壁には、「自由の館」と表示されている。北欧の公共図書館、学校図書館等を視察してから、風土との関係もあるだろうが、図書館の「館」の意味にこだわっている。

それまでの私は、大学図書館の活動として脱施設の考え方をとり、館ではなく情報センターの機能の必要性を意識していた。先端技術系の専門図書館歴が長いためかもしれないが、蓄積された多くの情報へ各自の端末からアクセスする利用者、検索式の組立てやシステムの特徴効率的な検索技術などを示して利用者を援助する図書館職員、ときには古文書を解説もする図書館員等を描いていた。専門をもち、図書館利用を自由にできる人々との対応の風景ばかり描いていた。

しかし、短大図書館での学生を見ているうちに、彼女達はシステムや情報資料について自立利用できるまでに情報資料の内容を、図書館の利用技術を体得していないことに気付いた。ガイダンスや利用指導が必要となることになるが、学生の多くは、これ以外にも情報・知識を

求めながら、人間的なふれあいや自分をさぐることへの助言をも希望しているようである。精神的にも学問の専門性からも半自立の状態にあるように、私には見受けられる。とくに文学系、社会科学系の分野のためだろうか。

図書館資料を擬視するという行為と、求めている情報・知識に出合ったというよろこびに、敏感に反応してくれるのも彼女達である。効率ではないが試行錯誤をくりかえしながら進んでいく。この本能的な行為は、やはり「館」という空間のなかでできる方法である。そして、その試行のコミュニケーションが、自立利用へとつながっていくように思われる。館とは公衆の利用に供する大建築物であり、その内部では活発な人間の交流があるべきかもしれない。宋代の翰林を館閣と称し、そこには三館（昭文館、史館、集賢院）と秘閣、龍図・天章の諸閣が含まれ、それらがすべて図書館であったことを思うと「館」には時間的累積の重さもある。

ところで、館の認識を少し新しくしてみると、館内に示されている「静粛」が気になる。静かなことは必要であり、読書や調査のためには騒音は禁物である。が、書架で資料をさがす音、最低限の会話等の調査行為音は許されてもいいと思う。粛にはつつしみ縮るの意もあるが、縮まらずに自由に情報を求め、提供したいと思っている。

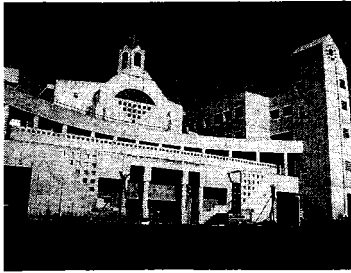
新館一覧 (加盟館、最近3年)

| 図書館名 | 地域 | 開館・年月 | |
|---------------|----|---------|---------------------------------|
| 埼玉女子短期大学図書館 | 埼玉 | 1989. 4 | 東京家政学院筑波短大付属図書館 |
| 東京基督教短期大学図書館 | 千葉 | 5 | 茨城 1990. 4 |
| 江戸川女子短期大学図書館 | 千葉 | 9 | 高松短期大学図書館 香川 4 |
| 東海大学福岡短期大学図書館 | 福岡 | 1990. 4 | 茨城女子短期大学図書館 茨城 1991. 7 |
| 実践女子短期大学図書館 | 東京 | 4 | シオン短期大学図書館 茨城 10 |
| 聖徳大学短期大学部図書館 | 千葉 | 4 | |
| 佐野女子短期大学図書館 | 栃木 | 4 | * 前回数報掲載分は除く |
| 西日本短期大学図書館 | 福岡 | 4 | * 図書館年鑑 1991年度、図書館雑誌 1992年・2月号現 |
| 滋賀文化短期大学図書館 | 滋賀 | 4 | 在 |

短大図書館めぐり—第25回—

沖縄キリスト教短期大学図書館

「知のセンター」として



1989年9月に本学が新築移転し、新しい図書館が完成した。本学は、旧キャンパスのほぼ北に隣接し、

閑静な学園都市の中にある。沖縄県中頭郡の南に位置しており、西原町の小高い丘の上に建つ新キャンパスからは、東方に太平洋、知念半島、中城湾がはるかに見え、西方には、東シナ海が一望できる風光明媚な所にある。

那覇の都心部からバスで約30分。将来モノレールの終着駅が近くに予定されており、通学には今後大変便利になっていくところである。

こうした地理的条件に恵まれた学術的環境の中で、本学は沖縄唯一のキリスト教主義短期大学として、国際化時代の郷土に生きる人材のさらなる育成の場として、新たな出発を期して建立された。

図書館は、本学のシンボルであるチャペルの一階にある。新キャンパス移転構想で立案された、三つの理念の元に位置づけられた。

大学を心のセンター、知のセンター、ゆとりのセンターとし、短大の正面に心のセンターのチャペルと知のセンターとしての図書館が配置された。開かれたゆとりのセンターとしての芝生の広場に学生・教職員が触れ合う半戸外のスペースを「共生の空間」として構想されたようである。

図書館は、中2階構造を持ち、中2階へ通じる車椅子用のスロープが館内の中央部にあり目につく。図書館上階のチャペルと教師の研究室が一体になった複合建築物で、正に図書館は本短大の頭脳を支える「知のセンター」としての機能を果している。

図書収容能力は約20万冊、現在の蔵書数が単行書、逐次刊行物を合わせて約10万冊。年間受入冊数は、和・洋書合わせて約4千冊、雑誌種数が171種、新聞種数が27種を有している。閲覧席数が160席。スペースにおいては当分、向う20年～30年は困らない計算である。

蔵書の特徴は、キリスト教関係と郷土資料の蔵書で、

蔵書の割合も高い。中でもキリスト教関係の文献資料は県内随一である。

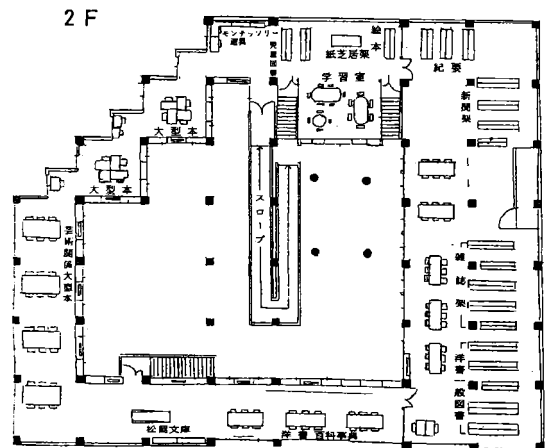
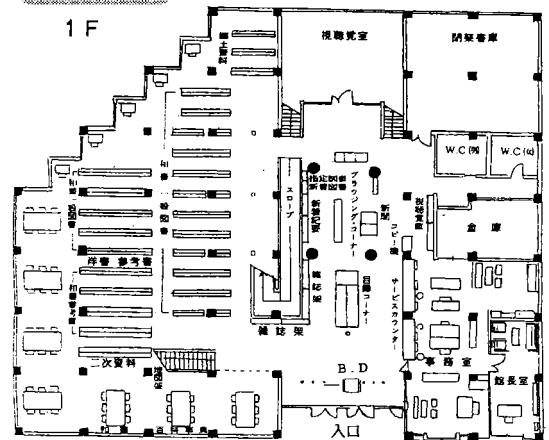
新館の特徴を挙げると、まずは快適に過ごせる冷暖房完備、ブックデティクション・ブラウジングコーナー・キャレルコーナー・AV室等があり、利用者がゆったりとした気分で過ごしている。

昨年度末に、AV室の機器備品が揃い、学生に大変好評を博し、講義の空時間を利用しては、CDやビデオ等を楽しみ利用している。

しかし、新館になってスペースは確保できたものの、移転して実際に過ごしてみると、建築構造上の問題で改善しなければならない課題が今後、幾つか残されているようである。

(宮元 和子)

館内配置図



— 本部報告 —

○会勢

| | | | |
|--------|----|-------|-----|
| 北海道 | 19 | 近畿 | 72 |
| 東北 | 15 | 中国・四国 | 29 |
| 関東・甲信越 | 99 | 九州 | 32 |
| 東海・北陸 | 42 | 合計 | 308 |

〈本部役員会〉

平成3年度第4回

日時：9月20日（金）14:00～17:30

会場：文化女子大学短期大学部図書館

議題

- ①全国研修会について
- ②「短期大学図書館研究」第12号について

平成3年度第5回

日時：10月19日（土）14:00～17:00

会場：共立女子大学図書館

議題

- ①全国研修会について
- ②「短期大学図書館研究」第12号について
- ③その他

役員会終了後、研修会場を現地視察

平成3年度第6回

日時：平成4年2月25日（火）14:00～18:00

会場：跡見学園短期大学図書館

議題

- ①全国研修会について
- ②「短期大学図書館研究」第12号について
- ③会報第30号について
- ④平成4年度の運営体制及び日程について
- ⑤その他

〈本部役員人事〉

小川禮子理事（女子栄養短期大学図書館）の退任

「短期大学図書館総覧」改訂版について

社会の変化に伴い短期大学教育の質的改善が指摘される中で、図書館に求められる役割も増大している時と想います。個々の図書館の充実だけに留まらず相互に協力し合うことが、より必要とされています。本会でもかねてから懸案の「短期大学図書館総覧」の改訂を行うことになりました。各図書館の現状を調査させていただき、有用性の高い〈改訂版〉にしたいと計画を進めています。

ついては、近くその調査を各館にご依頼いたしますので、ご協力いただけますようお願いいたします。

昭和63年度より紀要（短大図書館研究）編集担当として活躍されていましたが、この度、館のご事情により退任されることになりました。本協議会へのご協力をありがとうございました。今後のご健闘をお祈りいたします。

なお、本部役員会では当面、菅原理事に紀要担当を兼任して頂くことにいたしました。

原稿募集—「短期大学図書館研究」第13号—

「短期大学図書館研究」第13号の原稿を募集します。

図書館に関する研究論文、日常業務に関する調査報告書誌、文献目録、索引等会員の皆様のご投稿をお待ちします。

原稿枚数：指定原稿用紙（22字×15行）30枚前後

原稿締切：平成5年1月末日

送付宛先：〒112 東京都文京区大塚1-5-2

跡見学園短期大学図書館 平塚悦子

電話 03(3943)1368 FAX 03(3943)1368

なお、詳しい原稿募集要項、執筆要項は、同誌第12号の巻末をご参照ください。

☆会報にご投稿を☆

会報は加盟館に最新の情報をお届けするとともに、会員間の交流の場でもあります。あなたの図書館や、短大図書館に関するいろいろな話題をお寄せください。各地区の会報や報告を読んでいると意見や事例が活発に議論されている様子です。どこにも共通な問題が多くみうけられます。どうぞ他地区にもご紹介下さい。

また、会報の誌面づくり、内容等についてご意見、アドバイス、アイデアがございましたらお教え下さい。役に立つ読まれる会報にしたいと思います。

◀編集後記▶

会報第30号をお届けします。この会報は今年、お陰様で創刊号（昭和52年）より数えて15年になります。これもひとえに会員校、本部役員の方々のご協力、ご支援の賜ものと存じます。編集担当も変らぬ私と、青木君、網本君（元事務局）、そして現在の川井さんになりました。今、ふりかえって見ると会報は会長のもとで弱小の短大図書館の充実や発展のささえとして情報提供の役割があったと思われまふ。今後ともよろしくご支援、ご協力の程お願いいたします。（すがわら）